

## まえがき

本学は1894(明治27)年11月、林学・林産学に関する試験・研究および学生の実習に供する目的で千葉県清澄山にわが国最初の演習林を設定し、本年100周年を迎えることとなった。本演はその後幾多の変遷を経て、現在総面積約32,400ヘクタール、全国7カ所、亜寒帯から暖帯に至るわが国の主要な森林帯ごとに設置されている。

大学演習林はそもそも大学設置基準39条に基づき林学・林産学の実習教育のための学部付属施設として設置されているものである。しかし本演の場合、単にそのような目的のための場としてだけでなく、設定以来ユニヴァシティ・フォレストとして森林に関する高度な研究・教育に係わってきており、しかもそのウェイトの大きいことが特徴である。これは本演の設定者たちが日本の代表的な森林を広範な角度から研究しうる材料体として演習林を位置付けたことによる。この100年間、われわれの先人たちは広い視野に立ってそれぞれの時代にさまざまな試験地を設定して研究を行い、また国内はもとより世界各地から多くの林木の遺伝子資源を収集しこれを適切に管理してきた。さらに、明確な施業方針のもとで森林経営実験を持続的に実行してきた。こうして今日、本演は森林に係わるいかなる課題に関していつでも対応しうる多様な、また良好な森林を保有するに至っている。

近年、地球環境問題の深刻化とともに持続的森林経営の重要性が広く認識されてきたことに伴い、本演の持続的経営実験も内外の専門家から注目され、各地から見学者が絶えない。われわれは、こうした立派な研究林を造成し維持してきた先人の努力に感謝するとともに、これを次の世代に確実に伝えていく責務があることを痛感している。

ここに演習林の100年間の発展を取りまとめ、現状を明らかにするに当たり、関係者各位に深く謝意を表すると同時に、本演が今後多くの困難を克服し研究教育施設としてさらに充実・発展することを信じてやまない。

平成6年3月

演習林長 南雲秀次郎